



学校図書館だより

1月号

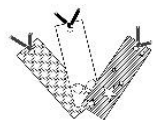
令和6年1月
柏市立光ヶ丘中学校
学校図書館

新しい年を迎えました。冬休みはたくさん本を読めましたか？1・2年生は1年間のしめくくりとして、3年生は進路も決まる大事な時期として、ますます忙しくなります。体調を整えて過ごして下さい。今年もよろしくお願いいたします。

干支とは・・・

十干（甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸）と十二支（子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥）を組み合わせた暦。「じゅっかんじゅうにし」とも読む。略して干支ともいい、干支は「えと」とも読む。中国の前漢時代にはじまり、日本には6世紀ごろに朝鮮を通じて伝えられた。十干と十二支を甲子、乙丑、丙寅というように60通りに組み合わせて、年、月、日にあてて用いる。日本では現在も、午年、未年などと十二支を年にあててよぶ習慣がある。また、暦だけでなく方位や時間をあらわしたり、人の運勢をうらなったりするときにも用いられる。『十干十二支（じゅっかんじゅうにし）』、総合百科事典ポプラディア（Sagasokka!）より、（2023-12-20 閲覧）

今年の干支は
「辰」だよ！



◆しおりコンテスト 投票のお願い◆

2学期に募集した、しおりコンテストの作品の投票を行います。各教室および学校図書館に、応募作品の一覧表を掲示しますので、その中から、3つの作品を選んで、配布された投票用紙にチェックし、各クラスの図書委員に渡してください。みなさんの人気を集めた作品は、2月以降しおりにして貸出時に配布します。ご協力よろしくお願いいたします！

作品一覧掲示・投票期間
～1月19日（金）まで



★学校図書館からのお願い★

★冬休みに借りた本の返却期限は1月19日（金）です。

★閉館時は返却BOXも利用できます。





めぐり逢ひて 見しやそれとも わかぬ間に
雲がくれにし 夜半（よは）の月かな
紫式部 『新古今和歌集』・一四九九



今月のテーマ
光(ヶ丘中学校)る君へ

今年大河ドラマの主演は紫式部。華やかな平安時代の貴族たちは電気もスマホもない時代に、どんな生活をしていたのでしょうか？時を超えて残された、和歌や日記、物語にその足跡をたどってみよう。

『紫の結び 源氏物語 1～3』
紫式部著 萩原規子訳 理論社〈NDC913〉

紫の上を中心に再構築した、新しい源氏物語。藤壺の宮の面影を持つ少女との出会いを最初に据えて、光源氏の一生を追う。1では、「桐壺」の次に「若紫」を配し、「若紫」に始まる話がひとつの帰着を見せる「明石」までを語る。2では、「若菜上」の半ばまでを取り上げ、都に返り咲いた光源氏が栄達を重ねていく様子を描く。3では、ほぼ原典どおりの運びで、ひとつの密通事件が物語の様相を変えていく、源氏の晩年を描く。

※ライブラリーサーチより引用

『平安ガールフレンズ』

酒井順子著 角川文庫 〈NDC910〉

『枕草子』の清少納言、『紫式部日記』の紫式部、『和泉式部日記』の和泉式部、『蜻蛉日記』の藤原道綱母、『更級日記』の菅原孝標女。今から1000年以上前に生きた女性たちは、一体どんな悩みを抱え、どのような恋愛をし、いかなる人生を送ったのだろうか？ 日記や随筆などの作品を読み解けば、彼女たちの性格が手にとるように見えてくる！

角川文庫HPより引用 <https://www.kadokawa.co.jp/>

『超訳 古今和歌集』

#千年たっても悩んでる』

noritamami 著 ハーパーコリンズ・ジャパン 〈NDC911〉

1000年以上も前から、恋も仕事も、人の悩みは変わらない!? 平安時代に編纂された「古今和歌集」から、恋の歌を中心に「令和の今でも、変わらない思い」を基準に和歌を選び、令和の言葉の訳と解説を付す。

※ライブラリーサーチより引用

『（萌えすぎて）絶対忘れない

妄想古文』

三宅香帆著 河出書房新社 〈NDC910〉

古文のおいしい部分は、濃密な人間関係が言葉で保存されているところ。「枕草子」=中宮定子×清少納言、「源氏物語」=頭中将×光源氏など、名作古典を「カップリング=関係性の解釈」で妄想しながら読み解く。

※ライブラリーサーチより引用

間違いは5つ！答えは学校図書館で